

平成24年度社会貢献プロジェクト

つくば育児マスター養成講座

こども・家族の家庭での一次救急トリアージのための教育講座

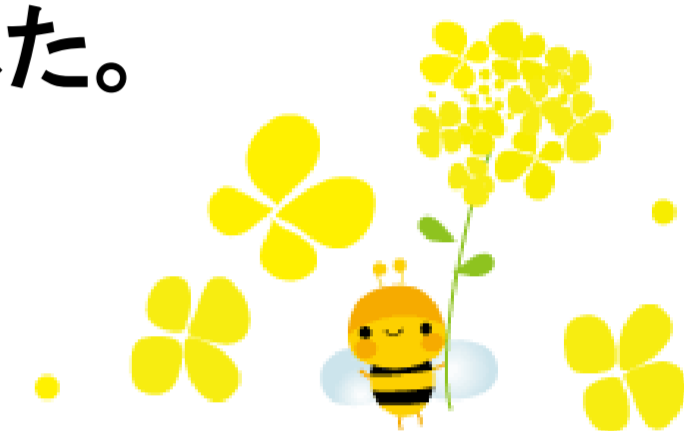
代表：田村恵美(筑波大学附属病院看護部・小児看護専門看護師)、
増本幸二(筑波大学小児外科)、小林千恵(筑波大学小児科)、野澤美加(看護部)

小児救急医療の問題点

小児医療を取り巻く環境は多様化しており、新聞報道等でも①小児科医の減少、②小児救急を受け入れられる場所の減少、ならびに軽度な症状でも救急に多くの患者さんが集まってしまう現状が指摘されている。これは成人の医療でも同様のことはあるが、特に小児領域では保護者が自分の子どもに対して過剰な反応、ならびに、医療への知識の不足等から慌ててしまうなどの理由が叫ばれている。

講座の目的

子育て支援策における子どもの健康確保、ならびに、家庭環境の保護にも重要な点であり地域中核医療機関としての当院を中心とした教育講座の実施と小児救急医療の仕組みを作ることは地域の子育て支援に貢献できると考え、「つくば育児マスター」養成講座を開始した。



実施概要

【対象】子育て中のご家族や子育てを終わられた方、これから子育てを予定されている方、プログラムに興味のある方

【内容】座学での教育と実践教育等を施行し、講座を受講したものに『つくば育児マスター』の称号を授与する。

【講座プログラム】10講座開設（小児外科医、小児科医、管理栄養士、小児看護専門看護師等による講座）

【参加者】12名 託児あり

講座プログラム

| |
|-----------------|
| こどもによくある急な症状① |
| こどもによくある急な症状② |
| 感染症と予防接種 |
| 身近に潜む危険物 |
| こどもによくある病気のお話し |
| こどもの食育 |
| こんなときどうする?! 救急編 |
| こんなときどうする?! 災害編 |
| 災害応用編、臓器移植とは? |



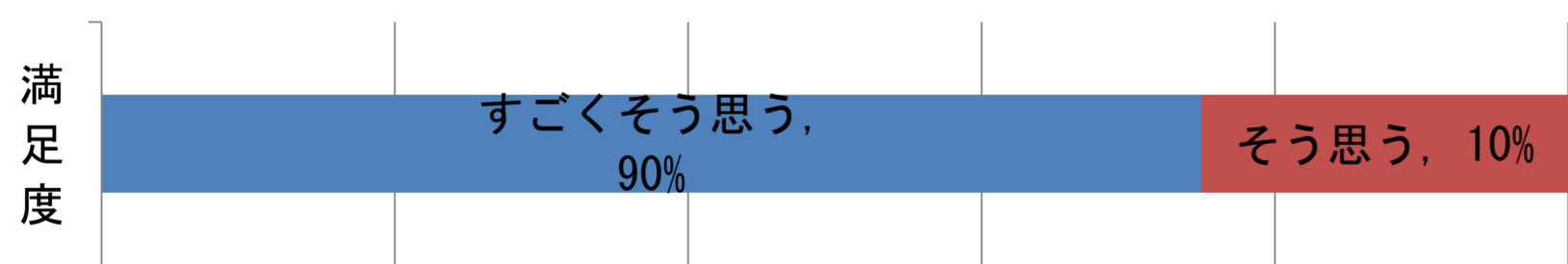
座学での講義の様子



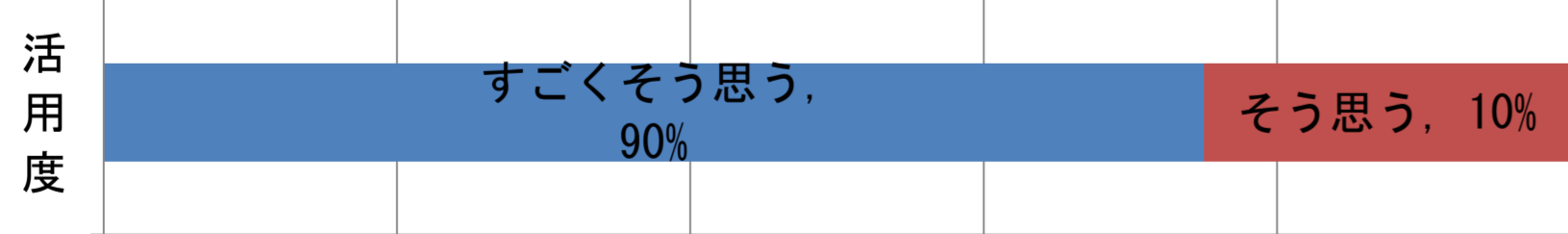
実践でのCRP蘇生クマを使用している様子

アンケート結果

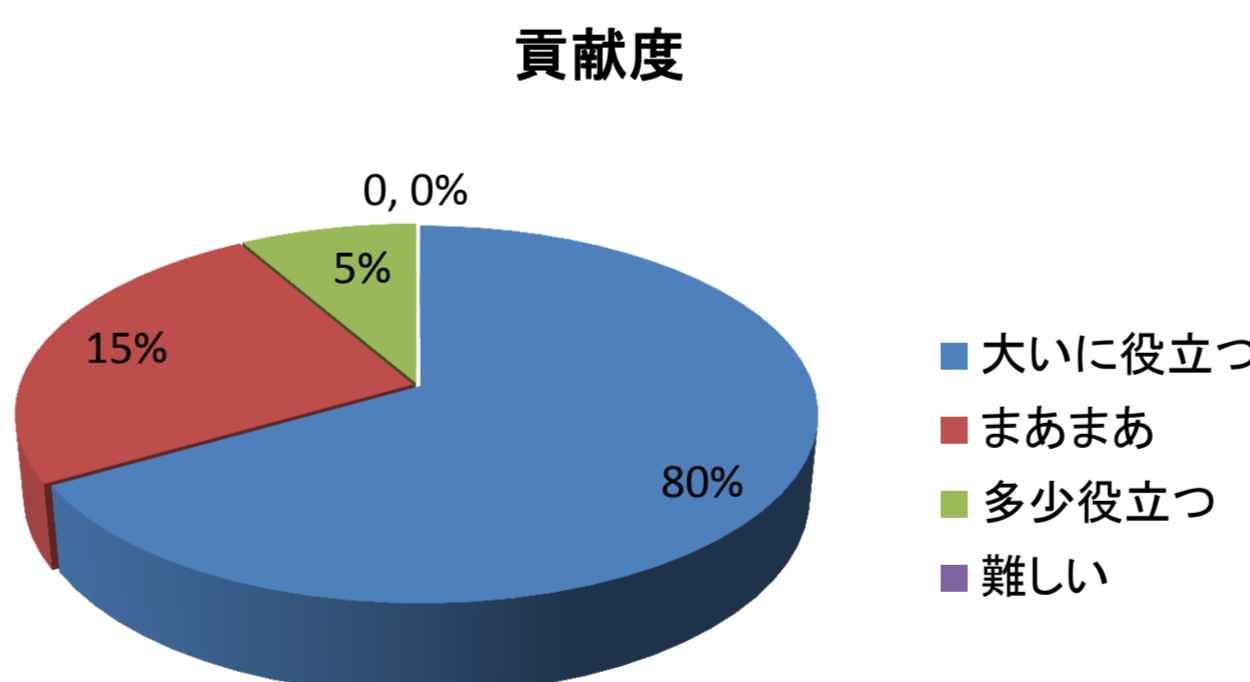
講義の満足度



講義の活用度



地域への貢献度



講義中の託児の様子

自由記載

- 医療用語は多かったが、基本的に日常で使えることの内容が多々あり役立った。
- 子育て中に不安を感じる事が多く、こどもに関する当たり前のようで聞けない病気や感染症、予防接種など多くの実体験を交えた講義が聞けた。また、実際に演習があったり、考えさせられることもあったりととても充実した時間であった。

今後の課題

- 茨城県の中での小児救急医療のシステム構築を家庭教育も含めた形で実施可能なものとなるよう実施していく。
- 家族への指導だけではなく、こども自身の「いのちの在り方」「生きるということ」を含めたいのちの教育という形でこどもと家族を支えるような事業の必要性がある。